



使徒言行録20章35節「受けるよりは与える方が幸いである」

お花のプレゼント



「まだそうはならない」という人もいるかもしれませんが、これからは人間関係をベースにした社会になると思います。働くうえでは実務能力も大切ですが、「あなたが好きだから一緒に仕事がしたい」という信頼関係が軸になっていくと思います。

では、そんな信頼関係を築いていくためには・・・。

それは、「与える人」になるということです。

このことは、キリスト教主義の本校の大切なマインドとも言えるのでしっかり各人に吸収させていくことが、みなさんの未来をつくっていくと考えています。私の感覚で申し訳ないのですが、この「与える人」については、時代が本校に追いついてきたという感覚です。上から視線はよくありませんが（笑）。

私は昨年度、できるだけ音楽科の生徒が出るコンテストや発表会に足を運びました。生徒の激励という建前はあるのですが、私自身のためという考えもありました。私は本校に来るまでこのような場に好んで行くことはしていませんでした。当然ながらつながりもありません。音楽科のある学校は初めてであり、これでは学校長として音楽科の立場に立って考えることはできるわけがないと思ったからです。少しでもそのシャワーを浴び、理解を深めていけたらと思いました。生徒のコンテストや発表会に行く際、出演する生徒には花のプレゼントを用意しました。花に付けるメッセージカードを書くときは、相手のことを想像して、相手が喜んでくれる姿も想像しています。贈る私がうれしい気持ちになっているのです。その後、担任や生徒、保護者からお礼を言われることがありました。そのお礼の言葉から、「この人は自分のことを考えてくれている」という信頼の始まりを感じることができました。お互い好意が生まれた実感をしました。

「与える人」というのは、言うまでもなく、金品ではなく、気持ちの話です。そして「与える」ときは、「相手の視点に立って考えること」を無意識にしています。

また、この「与える」は信頼関係づくりだけではありません。もう一つ言えることとして「他者への“与える”で、自分が成長する」ということがあると思います。相手の視点に立つことは、相手を喜ばせられるだけでなく、自分の視野を広げることにもなっています。私自身、音楽の世界に触れていることを考えたら、抽象的ですが自分の世界が広がって、なんとなく成長実感をもっている気がします。

そして、「与える」には鉄則があると思います。それは「まず自分から」ということです。相手のためにもなり、自分のためにもなるのだから、当然「まず自分から」が鉄則と考えます。まず、こちらが信頼している態度を示すと、相手も心を開いてくれることが多いのです。そして自分が成長するチャンスが増えます。日頃から小さな「与える」を続けていると、他者からの信頼度は高まっていきます。そうやって積み重なった個人的な「信頼」は、だんだん「評判」となって周囲にも広がります。その結果、まわってくるチャンスが増えるのです。私は学校の「評判」も同じだと思っています。だから女学院に関わる人たちの「与える」は必ず実を結ぶと考えています。

私たちはいろんな人と関わります。「与える人」になりましょう。そしてそれは「まずは自分から」を思いましょう。逆を言うと「無関心」が一番よくないことだと思います。

（学校長 重枝 一郎）